



京大広報

号外

2011.4

目次

〈入学式〉

- 学部入学式における総長のことば……………3422
- 大学院入学式における総長のことば……………3424

〈大学の動き〉

- 平成23年度学部入学式……………3426
- 平成23年度大学院入学式……………3427
- 平成23年度入学者選抜学力試験(個別学力検査)
の結果……………3429
- 名誉教授称号授与式……………3430



平成23年度 入学式



入学式

学部入学式における総長のことば

平成23年4月7日

総長 松本 紘

本日、疎水の水面に桜映ゆるこの「みやこめっせ」にご参集の3,031名のみなさん、京都大学に入学おめでとうございます。ご来賓の尾池和夫前総長、名誉教授、列席の副学長、各学部長、部局長、および教職員とともに、みなさんの入学をお祝いしたいと思います。また、みなさんの長く厳しい勉学が見事に実を結びましたことに敬意を表します。そして、これまでみなさんを支えてこられましたご家族や関係者の皆様にご心よりお祝いを申し上げます。

さて、みなさんはいま国難ともいふべき巨大地震、大津波、それに続く原子力発電所事故の渦中で、この入学式に臨んでいます。この空前絶後ともいえる巨大地震と大津波で、多くのかけがえのない命が失われました。この東日本大震災とそれに伴って起こった原子力発電所事故により被害にあわれている方々および被災地にご家族、ご親戚、ご友人・知人がおられる方々、並びに被災各県出身の入学生のみなさんに心からお見舞い申し上げます。

国を挙げて救援、復旧活動がすすめられ、復興も検討され始めたこの時期に大学に入学するということは、生涯忘れることのない記憶として残ることでしょう。そして、いま被災地を中心に日本人が互いに助け合い、整然と秩序ある行動をとり続け、日常を取り戻そうと努力している姿は、日本人が尊重してきた「和」の精神を世界に向けて示すものとなっています。そこで示される自助と共助は日本人の誇りです。被災地から離れた京都においても、被災地の苦難を分かちあい、長く心を寄せ、復旧と復興に積極的に支援していきたいものです。

東日本大震災において、現代の先端科学技術の粋を集めた各種施設が大自然の威力の前でもろくも崩れ去り、大きな被害につながりました。これを短絡的に科学の限界ととらえ、みなさんは虚無主義に捉われてはなりません。今回の大震災に関していえば、



科学者は地震や大津波について科学的知見をこれまで蓄積してきました。そのうえで、その知見をもとに、行政や各種事業者がリスクやハザードをどこまで経済的に許容するかという水準を想定し、社会は運営されてきたのです。そのような枠組みで本当に良かったのか、今後の社会のあり方をみなさんにもぜひ真剣に考えていただきたいと思います。

今回の東日本大震災を契機にすこし視野を広げて考えてみたいと思います。一見安定しているように見える大地は、実は変動を続けており、本質的に不安定であり、その上に私たちは営々と文明を築いてきました。さらに限られた資源を無限であるかのように錯覚し、経済成長を通じて生活の安楽さと利便性のみを追求していると次世代にとられかねない日々を送っています。地球が人類文明を支えきれなくなりつつあることを様々な徴候が示していることに鑑みると、我々はそろそろ文明のあり方を再考する時期に来ているのではないかとともに思います。そのためにみなさんは歴史から過去を学び、それに現代の知識を組み合わせることによって、将来の長期的なビジョンやあるべき姿というものを構想できる人間にならなければなりません。

今の日本には、地球社会のリーダーに必要とされる、将来をはるかに見通す力を持つ人間はそう多くないように思います。例えば、みなさんの多くはこれからまだ50年以上生きていくことになるでしょうが、その半世紀先まで見通せる人間というのはそう多くありません。京都大学に入学したみなさんには、遠い将来を見通し、未来を創造できる人間をぜひ目指してほしいと思います。将来を見通すためには、

学術が積み重ねてきたデータの蓄積を咀嚼する能力が必要です。その上に立って、何をすれば、自分が理想とする、あるいは世界が理想としうる社会を維持発展させることができるか、ということを考えることができます。その際に、あるべき未来の姿を構想するためには、確固たる世界観や哲学が必要です。さらに、現代社会は高度に分業化された専門家社会です。大学の一つの機能は、その専門家を養成することにあります。専門分野に深く切り込んで、既存の知識に何らかの新しいものを付加するという貢献、それが研究の営みです。やがて小さな貢献が集まり、壮麗な学術体系が構築されるわけです。換言すると、これこそが学術を形作ってきたのです。みなさんもその歴史的な営みに、学士課程の仕上げとなる卒業研究等で、ささやかながらも参加していくことになるでしょう。ただし、専門家は専門に専心するあまり、部分に埋没し、全体像を見失う危険があります。その弊に陥らないためにも、自らが専攻する学問分野の基礎と応用にかかる知識や技術を身に付けるだけでなく、一見関係のないように見える他の幅広い素養や周辺知識を教養として貪欲に吸収し、それをもとに多角的に判断し、物事の本質を見抜く力量を備えてほしいと願います。そして、過去に縛られることなく、可能な限り早い段階に自分自身の思想や人生哲学の骨格を作り、それに肉付けし、4年後には今の自分と違う自分をそこに見いだしてほしいと思います。

京都大学における学びの機会は、真理探究の道を自らすすむ者にあまねく開かれています。しかし、そこには、ときとして、濃密で激しい考え方のやりとりが必要となることもあります。決してあきらめず、「活達な対話」と相手の立場、考え方も尊重することを忘れず、あわせて自らも重んじるようこころがけてください。この自らを重んじるという「自重自敬」の考えは、明治30年の本学の第1回入学宣誓式に由来します。その心得を説かれた木下廣次初代総長は、書としてその言葉を本学に残してくださいました。その書は現在総長応接室を飾っています。また、木下廣次総長は「自重自敬」の心得に続け、「故に諸君は、既に後見を脱したる者として吾人は、諸

君を遇するなり」と述べて、「自立独立」を学生に勧めておられます。ご家族や関係者の皆様には、大学生活のために一定の扶助をお願いすることにはなりますが、私たち教職員同様、入学生を独立した個人として処遇されることをお願いいたします。

現在、京都大学には、およそ3,000名の教員と2,500名の職員、22,000名の学生がいます。京都大学在学中に出会い、そこで生まれる人間関係は、将来きっとみなさんの人生を豊饒なものにすることでしょう。学業において出会う人のみならず、課外活動やその他の出会いを大切に、生涯の知己、友人を得、多くの人々と考えを交換し、自ら進んで人間関係の綾を織りなしてほしいと思います。我々教職員は、伝統を基礎とし革新と創造の魅力・活力・実力ある京都大学を目指して、大学の教育・研究環境を充実させていきます。本日ご臨席のご家族や関係者の皆様には、引き続き、本学への支援や応援を切にお願い申し上げます。

最後に、みなさんに江戸時代に高い精度を持つ「大日本沿海輿地全図」と呼ばれる実測地図を作製した、伊能忠敬の心意気とその言葉を紹介したいと思います。伊能忠敬は50歳で隠居し、心機一転し、19歳も年下の高橋至時(よしとき)の門下に入り、西洋天文学、数学、西洋暦学を学び、正確な測量技術を確立し、55歳の1800年から71歳の1816年まで17年間全国各地を測量し、日本国の実測地図のデータを集めました。そして、目にした書物によると伊能忠敬は「精神の注ぎ候のところより自然と妙境に入り、至密の上の至密をも尽くし候」という言葉を残したそうです。その大意は、一点に精神を集中すれば、勉強や仕事に自然と興味が湧き、最上の結果に至ることができるということです。みなさんも自らの集中すべき一点を見つけ出し、そこで刻苦精励されることを願います。そして、健康に留意し、様々な自分の可能性に目を向け、力一杯活躍され、誇りある京大生となられんことを祈念し、私の入学式の式辞とさせていただきます。

京都大学への入学、おめでとうございます。

大学院入学式における総長のことば

平成23年4月7日

総長 松本 紘

本日、京都大学大学院に進学される修士課程2,217名、専門職学位課程323名、博士後期課程899名のみなさん、おめでとうございます。列席の副学長、研究科長、学舎長、教育部長、研究所長、および教職員とともにみなさんの進学をお祝いしたいと思います。また、これまでみなさんを支えてこられたご家族や関係者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

さて、我が国は東日本大震災に見舞われ、まさに国難のさなかにあります。大自然の猛威の前に人々の築き上げてきた生活がもろくも崩れ去り、1万人を大きく超える多数の犠牲者を出しました。みなさんとともにご冥福をお祈りしたいと思います。さらに福島第一原子力発電所の事故が続き、放射性物質の流出とそれに伴う様々な問題が引き起こされました。この原子力災害の終息には、なお幾多の困難を乗り越えねばなりません。このような未曾有の渦中で、みなさんはこの大学院入学式に臨んでいます。この大震災と原子力発電所事故により被害にあわれている30万人以上の方々、被災地にご家族、ご親戚、ご友人・知人がおられるの方々、並びに被災各県出身のみなさんに心からお見舞い申し上げます。

国を挙げて救援、復旧活動がすすめられ、復興も検討され始めたこの時期に進学するということは、みなさんにとって生涯忘れることのない記憶として残ることでしょう。巻き込まれたプレートの跳ね上がりにより起こる巨大地震と津波は、これまでも幾度となく我が国を襲ってきました。研究者は事実を調査し、知見を蓄積してきましたが、地震などの規模の想定を社会に自ら提供するわけではありません。安全のための規模想定は、各種事業者や行政が行うものです。その想定された規模を超える巨大地震と津波のため、今回は原子力発電所も被害を被



ることになりました。そのような極めて過酷な状況の中、いま被災地を中心に日本人が互いに助け合い、整然と秩序ある行動をとり続け、日常を取り戻そうと努力している姿は、日本人が尊重してきた「共生」の精神を世界に向けて示すものとなっています。そこで示される共助の精神は日本人の誇りです。世界の大学の学長から届く手紙には、お見舞いとともこの日本人の気高い精神と復興への強い決意への称賛が述べられています。私たちは被災地から離れた京都においても、被災地の苦難を分かち、長く心を寄せ、大学人として、また個人として、復興に協力する決意を新たにしなければなりません。

さて、みなさんが進学する修士課程では、学士課程で身に付けた知識や教養の蓄積の上に、さらに基礎的な知識を補いつつ、研究のために必要な専門知識と技術を身に付けるなど、専門家として独り立ちできるよう体系的な教育が行われます。専門職学位課程では、高度の専門性を必要とする職業などに従事する人材を育てるために、理論と実務との橋渡しを行う新たな教育課程の中で学修が進められ、国際的に活躍しうる人材の養成が行われます。博士後期課程では、修士課程までに修得した知識や技術を基礎に、自ら研究計画を構想し、独創的な研究を遂行し、学術誌などにより研究成果を国際的に発信していくよう指導が行われます。これら大学院において、みなさんは専門分野において世界の最先端に躍り出ることを目指してください。その努力は、きっと遠からず実を結ぶものと私は確信しています。

今回の東日本大震災によって、現代の都市や農村の社会的インフラや生活基盤が大自然の威力の前にもろくも崩れ去り、甚大な被害につながりました。しかし、これを短絡的に人間の力の限界にとらえ、虚無主義や科学技術不信に陥ってはなりません。確かに、この未曾有の大震災を目の当りにして、科学技術や人間社会の脆弱さを感じたことでしょう。しかし、歴史に学べば、人類はいかなる大災害や苦難も人知と科学技術によって乗り越えてきました。

今回の震災を契機に、みなさんは今後被災地にどのような手助けをしようか、どういう貢献が大学院生としてできるだろうか、さらには安心安全な世界をつくるにはどうしたらいいか、専門を極めることだけでいいのだろうか等、様々に悩み、考え始めていることと思います。

災害からの復興には、あらゆる視点からの様々な専門知識が必要とされます。すなわち、非常時、復旧時、復興時といった異なる段階や、我が国や世界といった異なる場所で、それぞれ緊急性の高いミッションを機動的に成し遂げるために、広範囲の専門知識が必要です。ゆえにみなさんは、今回の大災害から生まれた問題意識を忘れず、まず自分の専門分野を通じた貢献を考えてください。さらにそれを長い時間軸の上で大きく展開して、日本、アジア、世界全体を視野に、みなさんが生き抜いていかねばならない今後50年のあるべき姿を見通し、地球社会のリーダーのひとりとして活躍できるよう研鑽を積んでください。みなさんの多くは、自分自身の素材としての価値を十分には認識できていないと思います。大学院修士課程に進学したほぼ45年前には私も自信が持てず、人生についてはっきりした見通しをも持つことができなかったことを覚えています。周辺の友人も同様でした。しかし、現在多くの友人は、日本あるいは世界のリーダーとして活躍をしています。みなさんは確実に社会のリーダーとなる人材です。どうか世界の中心的役割を担い始める10年先に社会のリーダーとして必要とされる知識体系や考え方を準備しておいてください。そのためにも、リーダー

として世界で活躍する際に必要となる語学力、リテラシー、説得力、企画力、発信力、感化力などの人間力を涵養し、しなやかで豊かな人間力を身に付ける必要があります。この二つこそが大学院で身に付けるべき高度な教養というものではないでしょうか。玉も磨かざれば光なしです。大いに研鑽してください。

また、本学には大学院を中心にして1,700名を超える留学生や、海外からの研究者が在籍しています。海外の大学との学生交流協定も数多く締結し、海外での武者修行の様々な機会を提供しています。また、多くの京都大学の研究者が国際舞台で活躍をしています。本学のこの学術資源を有効に活用して、大学院時代に活動の場を世界に広げて、是非積極的に海外に雄飛してほしいと思います。今から157年前の安政元年3月27日の夜、吉田松陰と金子重輔は死を覚悟で鎖国の掟を破り、海外渡航を夢見、米国のポーハタン号に乗船し、「吾等米利堅^{めりけん}ニ往カント欲ス」と筆談で乗船を交渉しました。しかし、その願いは無念にもペリー艦長には届きませんでした。ぜひ、みなさんには松陰のような熱い思いを持ち、早くから世界を舞台にしてほしいのです。それは何事にも代え難い有意義なものとなるでしょう。私も初めて海外に出た若い時代の経験を今でも忘れることはありません。

未曾有の大震災に見舞われた日本社会は、広い視野、柔軟な思考、難問を前にひるまない気概を持ったリーダーを必要としています。我が国あるいは人類の未来は、みなさんを含めてわれわれ自らの手で拓かねばなりません。みなさんが京都大学の大学院生として、さらなる高みを目指し、既成概念にとらわれず、常に「問い」を自らに発しながら、課題解決への道を切り拓いていくと同時に、自らを心身ともに磨いていかれることを願い、私のお祝いのことばといたします。

みなさんの活躍を期待しています。大学院進学、おめでとうございます。

大学の動き

平成23年度学部入学式

4月7日(木)午前9時30分から、京都市勤業館みやこめッセにおいて、尾池和夫前総長、名誉教授をはじめ各副学長、各部局長等の出席のもとに平成23年度学部入学式が挙行された。

京都大学交響楽団による演奏の後、出席者一同で

3月11日に発生した東日本大震災の被災者に対し、1分間の黙祷により哀悼の意を表した。合唱団による学歌斉唱の後、松本 紘総長の式辞があり、午前9時56分に終了した。

今年度の入学者数は次のとおりである。

平成23年度学部入学者数

区 分 学 部	一般入試 (前 期)	外国学校 出身者選抜	外国人留学生 特別選抜	編 入 学	再 入 学	転 入 学	学士入学	合 計
総合人間学部	128 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	1 人	129 人
文 学 部	226	—	—	—	—	—	7	233
教 育 学 部	61	—	—	6	—	—	—	67
法 学 部	332	5	1	9	—	—	—	347
経 済 学 部	239	4	11	12	—	—	—	266
理 学 部	316	—	—	—	—	—	—	316
医 学 部	260	—	—	—	—	—	—	260
薬 学 部	82	—	—	—	—	—	—	82
工 学 部	967	—	36	9	—	—	—	1,012
農 学 部	316	—	3	—	—	—	—	319
合 計	2,927	9	51	36	—	—	8	3,031



(学務部)

平成23年度大学院入学式

4月7日(木)午後2時から、京都市勧業館みやこめっせにおいて、各副学長、各部局長等の出席のもとに平成23年度大学院入学式が挙行された。

京都大学交響楽団による演奏の後、出席者一同で3月11日に発生した東日本大震災の被災者に対し、

1分間の黙祷により哀悼の意を表した。合唱団による学歌斉唱の後、松本 紘総長の式辞があり、午後2時24分に終了した。

今年度の入学者数は、次のとおりである。

平成23年度修士課程入学者数

区分 研究科	修士課程						合計
	入学	外国人留学生		再入学	外国人留学生		
		国費	私費他		国費	私費他	
文学研究科	94 ^人	3 ^人	11 ^人	- ^人	- ^人	- ^人	108 ^人
教育学研究科	34	1	2	-	-	-	37
法学研究科	2	1	8	-	-	-	11
経済学研究科	25	3	11	-	-	-	39
理学研究科	275	5	5	-	-	-	285
医学研究科	78	-	1	-	-	-	79
薬学研究科	48	1	5	-	-	-	54
工学研究科	679	3	40	-	-	-	722
農学研究科	271	6	13	-	-	-	290
人間・環境学研究科	124	4	22	-	-	-	150
エネルギー科学研究科	131	-	4	-	-	-	135
情報学研究科	169	3	20	-	-	-	192
生命科学研究科	66	1	2	-	-	-	69
地球環境学舎	32	4	10	-	-	-	46
合計	2,028	35	154	-	-	-	2,217

平成23年度修士課程(専門職)入学者数

区分 研究科	専門職学位課程			
	入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他	
法学研究科	159 ^人	- ^人	- ^人	159 ^人
医学研究科	26	2	1	29
公共政策教育部	39	1	4	44
経営管理教育部	59	-	32	91
合計	283	3	37	323

平成23年度博士後期課程入学者数

区分 研究科	進学	博士後期課程											合計
		外国人留学生		編入学	外国人留学生		再入学	外国人留学生		転入学	外国人留学生		
		国費	私費他		国費	私費他		国費	私費他		国費	私費他	
文学研究科	40 ^人	3 ^人	4 ^人	4 ^人	- ^人	9 ^人	- ^人	60 ^人					
教育学研究科	23	-	4	8	-	1	-	-	-	-	-	-	36
法学研究科	6	2	4	2	-	1	1	-	-	-	-	-	16
経済学研究科	9	1	5	5	-	1	-	-	-	-	-	-	21
理学研究科	123	-	1	14	3	5	-	-	-	-	-	-	146
医学研究科	20	-	2	17	4	1	-	-	-	-	-	-	44
薬学研究科	13	3	-	6	1	1	-	-	-	1	-	-	25
工学研究科	64	2	3	41	5	11	-	-	-	-	-	-	126
農学研究科	46	1	3	7	7	4	-	-	-	-	-	-	68
人間・環境学研究科	60	2	8	12	2	2	-	-	-	-	-	-	86
エネルギー科学研究科	9	1	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	14
情報学研究科	14	2	4	9	1	2	-	-	-	-	-	-	32
生命科学研究科	21	2	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	29
地球環境学舎	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	3
合計	448	19	40	131	24	42	1	-	-	1	-	-	706

平成23年度博士課程(医学専攻)入学者数

区分 研究科	博士課程						合計
	入学	外国人留学生		進学	外国人留学生		
		国費	私費他		国費	私費他	
医学研究科	129人	8人	8人	9人	-人	-人	154人
合計	129	8	8	9	-	-	154

平成23年度一貫制博士課程入学者数

区分 研究科	一貫制博士課程						合計
	入学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		
		国費	私費他		国費	私費他	
アジア・アフリカ地域研究研究科	21人	1人	2人	2人	-人	-人	26人
合計	21	1	2	2	-	-	26

平成23年度博士課程(3年)入学者数

区分 研究科	博士課程						合計
	進学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		
		国費	私費他		国費	私費他	
地球環境学舎	5人	1人	2人	2人	2人	1人	13人
合計	5	1	2	2	2	1	13



(学務部)

学部入学式および大学院入学式の会場にて、東日本大震災で被災された方々への支援策として義援金をお願いしたところ、1,082,280円のご協力をいただきました。多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。この義援金は、全額を日本赤十字社又は被災地の自治体などへ寄附させていただきます。

平成23年度入学者選抜学力試験(個別学力検査)の結果

平成23年度入学者選抜学力試験(個別学力検査)の前期日程試験は、2月25日(金)・26日(土)および27日(日)に実施した。

学部・学科別の受験者数、合格者数、入学者数等は次表のとおりである。

学部	募集人員(A)	志願者数(B)	倍率(B/A)	第1段階選抜合格者数	受験者数(C)	倍率(C/A)	欠席者数	欠席率	合格者数	辞退者数	追加合格者数	入学者数
総合人間学部	120 ^人	467 ^人	3.9	464 ^人	452 ^人	3.8	12 ^人	2.6%	128 ^人	0 ^人	0 ^人	128 ^人
前期												
文系	65	262	4.0	260	251	3.9	9	3.5	69	0	0	69
理系	55	205	3.7	204	201	3.7	3	1.5	59	0	0	59
文学部	220	744	3.4	744	734	3.3	10	1.3	226	0	0	226
前期												
文系	60	216	3.6	216	213	3.6	3	1.4	61	0	0	61
理系	50	181	3.6	181	178	3.6	3	1.7	51	0	0	51
前期												
理系	10	35	3.5	35	35	3.5	0	0.0	10	0	0	10
法学部	320	861	2.7	859	846	2.6	13	1.5	332	0	0	332
前期												
一般	230	827	3.6	776	769	3.3	7	0.9	240	1	0	239
前期												
一般	180	560	3.1	560	556	3.1	4	0.7	190	0	0	190
論文	25	139	5.6	88	87	3.5	1	1.1	25	1	0	24
前期												
論文	25	128	5.1	128	126	5.0	2	1.6	25	0	0	25
理学部	311	930	3.0	913	907	2.9	6	0.7	317	1	0	316
前期												
医学部	250	648	2.6	628	620	2.5	8	1.3	265	5	0	260
前期												
医学科	107	324	3.0	304	302	2.8	2	0.7	110	0	0	110
前期												
人間健康科学科	143	324	2.3	324	318	2.2	6	1.9	155	5	0	150
前期												
看護学専攻	70	143	2.0	143	139	2.0	4	2.8	76	1	0	75
前期												
検査技術科学専攻	37	101	2.7	101	101	2.7	0	0.0	38	1	0	37
前期												
理学療法専攻	18	39	2.2	39	38	2.1	1	2.6	20	0	0	20
前期												
作業療法専攻	18	41	2.3	41	40	2.2	1	2.4	21	3	0	18
前期												
薬学部	80	213	2.7	213	209	2.6	4	1.9	83	1	0	82
前期												
薬科学科	50	114	2.3	114	111	2.2	3	2.6	53	1	0	52
前期												
薬学科	30	99	3.3	99	98	3.3	1	1.0	30	0	0	30
前期												
工学部	955	2579	2.7	2579	2551	2.7	28	1.1	970	3	0	967
前期												
地球工学科	185	573	3.1	573	568	3.1	5	0.9	185	0	0	185
前期												
建築学科	80	198	2.5	198	195	2.4	3	1.5	82	0	0	82
前期												
物理工学科	235	553	2.4	553	549	2.3	4	0.7	238	1	0	237
前期												
電気電子工学科	130	369	2.8	369	364	2.8	5	1.4	133	0	0	133
前期												
情報学科	90	269	3.0	269	265	2.9	4	1.5	92	2	0	90
前期												
工業化学科	235	617	2.6	617	610	2.6	7	1.1	240	0	0	240
前期												
農学部	300	851	2.8	851	843	2.8	8	0.9	316	0	0	316
前期												
資源生物科学科	94	-	-	-	-	-	-	-	97	0	0	97
前期												
応用生命科学科	47	-	-	-	-	-	-	-	49	0	0	49
前期												
地域環境工学科	37	-	-	-	-	-	-	-	40	0	0	40
前期												
食料・環境経済学科	32	-	-	-	-	-	-	-	34	0	0	34
前期												
森林科学科	57	-	-	-	-	-	-	-	60	0	0	60
前期												
食品生物科学科	33	-	-	-	-	-	-	-	36	0	0	36
前期												
計	2,846	8,336	2.9	8,243	8,144	2.9	99	1.2	2,938	11	0	2,927

※地球工学科の入学者には、外国人留学生を対象とした国際コースの入学者4人を除く。

〔外国学校出身者のための選考の実施結果(外数)〕

学部	募集人員(A)	志願者数(B)	倍率(B/A)	第1次選考合格者数	受験者数(C)	倍率(C/A)	欠席者数	欠席率	合格者数	辞退者数	入学者数
法学部	10 ^{人(以内)}	24 ^人	2.4	18 ^人	10 ^人	1.0	8 ^人	44.4%	5 ^人	0 ^人	5 ^人
経済学部	10	26	2.6	16	9	0.9	7	43.8	4	0	4

※受験者数・欠席率は最終教科のものである。

(学務部)

名誉教授称号授与式

4月5日(火)午前11時から総長応接室において、塩田浩平理事・副学長, 湊 長博医学研究科長の出席のもとに名誉教授称号授与式が挙行政され、松本 紘総長から当日出席の中村孝志元教授(大学院医学研究科)に称号が授与された。

称号を授与された方は、次の4名である。



名誉教授の称号を授与される中村元教授

(氏 名)	(推 薦 部 局)
河 野 明	(理 学 研 究 科)
中 村 孝 志	(医 学 研 究 科)
北 畠 直 文	(地 球 環 境 学 堂)
宮 島 朝 子	(医 学 研 究 科)

(総務部)

